



しまだ 島田 さとる 敏 さん(海老ヶ島)

市内にある遺跡や史跡を、みなさんに知ってもらえる機会が増えるといいなと思いました。



調査範囲はサッカーコートほどの

鮮やかに蘇る古代の生活

先日、仕事中に偶然、明野地区で遺跡発掘調査が行われているのを知りました。道路などの建設時には、行政調査として発掘が行われますが、この調査は「筑西つくば線バイパス」の造成工事に伴い昨年8月に開始されました。そこで、調査を行う(公財)茨城県教育財団で埋蔵文化財指導員の榎村宣行さんにお話を伺いました。

石倉西遺跡 — 古代ロマンに触れる —



埋蔵文化財指導員 榎村さん

広さで、竪穴式住居や柱の跡が数多く広がり、須恵器や土師器などの破片が地面から露出していました。

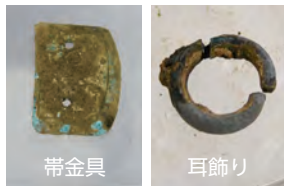
見つけたものから推測できる時代を榎村さんに伺ったところ、遺跡は主に、縄文、古墳、奈良、平安、中世とのことでした。

縄文時代のものには、狩猟を目的とした深さ約1mの落とし穴が見つかっています。住居の跡はないので、少し離れた場所に集落があり、狩りのためにここに来ていた可能性があるそうです。

そして古墳時代のものには、普通の集落では発見されない銅地金張の耳飾りが出土していることから、近くに古墳があったことが推測されるそうです。奈良・平安時代のものには竪穴式住居跡があり、人がたくさん住んでいた痕跡が見つかっています。

中世のものには陶磁器、人骨、馬骨、火葬施設、墓などの遺構が多数発見されており、区画されていて井戸があることから、お墓やお寺とお寺が一体になったものがあつたと思われます。

さらに、榎村さんは出土したものについて「奈良時代の大きな住居跡から銅地金張の帯金具が出ています。位の高い役人が住んでいたか、当時の役所が近くにあつたことがうかがえます。常陸国新治郡の下には、12の郷があつたといわれていますので、この場所は そのうちの一つの可能性が有ります」と、現在も調査中のため断言はできないとしながらも教えてくれました。



発掘体験・見学は大歓迎

現在、令和4年度の調査は終了し、今年の4月以降に発掘の再開が予定されています。

同財団では、事前申込制で発掘体験や見学を積極的に受け入れてお



詳しい調査結果 (発掘情報いばらき)

帯金具が発見された古代の建物跡

り、榎村さんは「貴重な機会なので、学校の歴史の授業や有志のグループでぜひ見学や体験に来てほしいです。発掘に興味を持ってくれる人が増えるとうれしいです」と話します。

取材を終えて

実際の発掘現場を見て、先人の暮らしが垣間見られることが興味深くとてもわくわくしました。調査完了後は、道路となり遺跡はなくなってしまうですが、資料は保存され、遺跡の説明会も予定されているようです。ぜひ今年の春の調査再開を楽しみにしててください。

発掘現場の見学・体験について

【申一問】(公財)茨城県教育財団

☎029-225-6587